

生ごみ減量モニター 参加者アンケート 中間報告



今回の、ごみ減量推進課で行なった生ごみ減量効果調査モニターは、生ごみは多量の水分を保持・吸収し重さが増えてしまうという特性があることを検証するために行いました。シンク内に三角コーナーを設置した場合に、食器などを洗う際に生ごみに水がかかり、生ごみの水分が増えて重さが増えてしまうという問題点の確認とその対策方法の効果について、参加・ご協力をいただきました。

調査1 ぬらさないバケツ

野菜くず・残飯などの処理に、ぬれてしまう可能性の高いシンクを避けて、生ごみを直接専用バケツに入れて、処理する方法です。今回の調査では、生ごみがシンク内で水がかかってしまう状態を再現して、生ごみが増量する量を調べました。

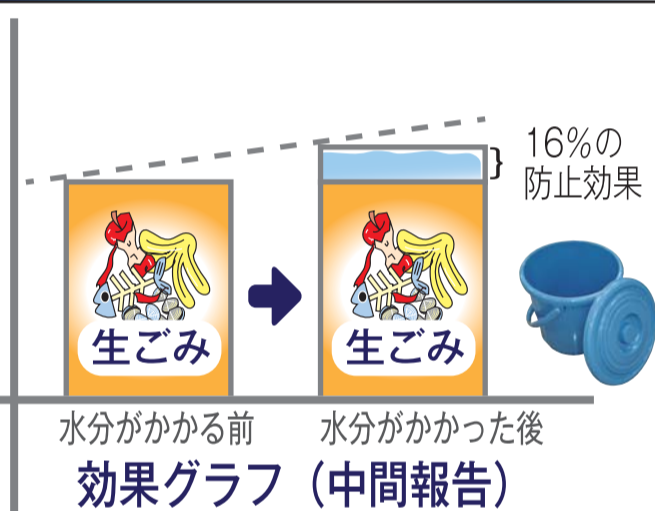


調査2 水切り三角コーナー

生ごみは根菜類や果物の皮などの固いものから、お米や麺類などの水分を含みやすいものまで多様です。今回の調査では、生ごみの水切り専用機器を使用して、生ごみの水切り効果・問題点を調べました。



ぬらさないバケツ 水分増量防止効果



—調査結果—

生ごみには水分を保水する特性があり、ぬらしてしまうことによって、約16%も増量してしまうことがわかりました。生ごみ処理には、ぬれる状況があるシンク回りを避けて処理することで、生ごみ増量を防止することができます。

参加者 ご感想1

生ごみをぬらさず、容器に入れていくのは、慣れれば簡単で、効果を考えれば、すごく良い方法だと思います。

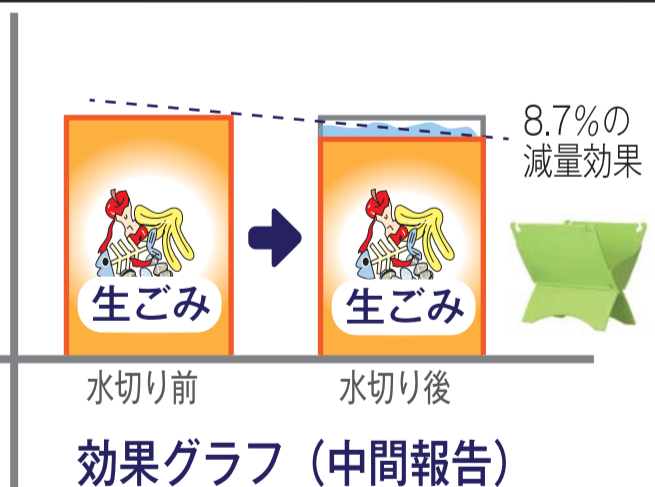
参加者 ご感想2

ぬらさないように捨てるほうが全然少ないと思っていたが、実際に計量してみてその重さの違いに改めてびっくりしました。

参加者 ご感想3

生ごみの水分が処理費用を増大させていると聞いています。一人でも多くの市民が水分を除去するようにしたいものです。

水切り三角コーナー 減量効果



—調査結果—

一定程度の生ごみの減量効果がみられたものの、生ごみは固いものと柔らかいものが混入する多様な特性があり、水切り機器との相性もあって水切り効果が思うほど出ないことがわかりました。

参加者 ご感想1

水切りは思うほど水が切れなかった。生ごみをぬらさず捨てるのが大切だと思いました。

参加者 ご感想2

ごみの種類により水切りが効果的なものとそうでないものがあります。

参加者 ご感想3

水切り三角コーナーを使用することで生ごみの減量・分別意識が高まりました。

生ごみの減量と発生抑制



生ごみはぬらさない対策をとることで、可燃ごみの増量防止に大きな効果があります。また、シンク内に放置せず処理することにより、害虫発生や臭いの対策にとっても効果的です。水切り三角コーナーは、調理くずや果物の皮などでは効果があまり期待できませんが、すでに水分を含んでいる残飯（汁物）などに適しています。生ごみの水切り対策は減量効果としては、微量のように感じますが、排出されるごみの中でも水分を多く含んだ生ごみは、少ししぼるだけでもごみの減量対策として大きな効果が期待できます。